



医療法人 光臨会 荒木脳神経外科病院

リハビリテーション部

募集案内

荒木脳神経外科病院では、脳卒中のリハビリテーションを学びたい療法士を募集しています。

当院は優れた診断機器と高い技術、そしてきめ細やかな医療・看護・リハビリテーションを提供しており、回復期リハビリテーションにおいては在宅復帰率約80%という高い数字を誇っています。

病院理念に掲げている高機能で質の高いチーム医療の提供を、患者さま中心に医師、看護師・リハビリテーション療法士・ソーシャルワーカー等のコ・メディカルスタッフが有機的に連携し、常に専門性を十分に発揮する医療提供をめざしています。

そのためにリハビリテーション部では、各療法士5~6名を1つのチームとし活動する体制を整備し、新入職員へのOJTもこのチーム体制で実施していく等の教育プログラムの充実を図っています。

当院では、急性期から回復期、生活期までの脳神経外科領域を中心とした一貫したリハビリテーションに加え、市町や地域の皆さまと共同していく地域リハビリテーション活動にも取り組みます。

一人ひとりが自分のめざすキャリアをしっかりとイメージし、そして確かな専門知識・技術を身につけ、豊かな人間性と優しい心を持ったリハビリテーション療法士になっていただくことを支援します。



リハビリテーションの流れ

当院では、発症直後から行われる急性期リハビリテーション、急性期治療を経て積極的にリハビリテーションに取り組む回復期リハビリテーション、そして退院後の生活の中で行う生活期リハビリテーション、と一貫したリハビリテーションを提供しています。

また、地域リハビリテーション広域支援センターとしての活動も積極的に行っており、西区唯一の脳神経外科専門病院として地域の皆さまの生活に貢献するべく、さまざまなステージで療法士が活躍しています。



急性期

この時期は、ベッドで寝ている時間をできるだけ短くし、「廃用症候群（安静臥床が続くことによって起こるさまざまな心身機能の低下や合併症）」を予防することが重要です。

病状に配慮しながら、発症早期から

- ◎起立、立位、歩行練習のような動作練習
- ◎「食事」「トイレ」「着替え」のような日常生活に必要な動作練習
- ◎食べる練習、話す練習

を行います。当院では、この時期から365日リハビリを提供しています。

脳卒中後に集中的に行う「脳卒中ケアユニット (SCU: Stroke Care Unit)」および「一般病棟」では、安全にリハビリテーションを進めるために、チーム内での情報共有も重要です。



回復期

点滴や手術での急性期治療が終了した後に、より積極的なリハビリテーションが必要な患者さまを対象としています。そのため、退院後に一緒に生活されるご家族にも練習場面の見学や介助の練習を行ってもらい、自宅で楽しく暮らせるような関わり方の習得に向けたサポートも行っています。リハビリテーションの場所は病棟、リハビリ室だけではなく、退院後の生活スタイルや生活場所を見据えて、公共交通機関を利用した外出練習、1泊2日の外泊練習、車の乗り降り練習など幅が広がってきます。また、自宅へ訪問し生活環境を整えることも行いますので、早い段階から間取りや段差などの自宅環境も確認していきます。

当院の回復期リハビリテーション病棟は、在宅復帰率約80%を達成する等、国が要求するリハビリテーション病棟の最も高い水準をクリアしており、患者さまに充実したリハビリテーションを提供しています。



教育プログラム

1年目

プリセプター制度※を導入しており、1年間は3~4年目の先輩がマンツーマンで指導します。知識や技術指導は、5年目以上の先輩がリハビリ場面を通して指導し、成長速度に応じてリハビリ場面の見守りの量を調整していきます。見守りとは、新人療法士が実際にリハビリしている場面を見学し、適切な声かけや評価の仕方、プログラムの立案等の指導を行うことを指しています。入職後は1日に担当する患者さまの数は能力に応じて徐々に増やしていきます。同時並行で約2カ月かけて、当院の体制や業務内容についてのオリエンテーションを行います。



新人フィードバック



1年後振り返り研修



見守り下でリハビリ施行

※プリセプター制度

先輩療法士が新人療法士をマンツーマンで教育・指導する制度。
 その他：当院全体のシステムが理解できるようオリエンテーションがあります。



4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
・オリエンテーション ・新人研修(法人全体)	・KYT ・医療安全研修		HAL安全使用者講習		部署内学術集会	半年後フォローアップ研修	症例検討会		全体研修		1年後フォローアップ研修
見守り下で患者対応1人~	患者対応：午前・午後で4人~	1日18単位 軽症患者対応自立			・重症患者対応自立 ・軽症新患対応自立			ハイリスク・重症の新患対応自立			



2年目以降

学会発表の支援体制

発表したい意欲のあるスタッフには、抄録やスライド作成などのサポートを積極的に行っています。年1回リハビリテーション部内で学術集会を開いており、院外発表に向けた挑戦の場となっています。学会や研修参加を支援する制度があり、積極的に活用しています。



部署内の学術集会



学会参加、口述発表の様子



資格取得支援制度

当院では各資格の取得に向けた支援を行い、研修に必要な費用を病院が負担する制度を設けています。リハビリテーション部では本支援制度を利用した多くの療法士が、質の高いリハビリテーションサービスを提供できる病棟作りに取り組んでいます。

■資格取得の一例

※令和6年4月1日現在

	PT	OT	ST	合計
介護支援専門員	3	3		6
回復期セラピストマネジャー	4	1	2	7
3学会合同呼吸療法認定士	5			5
認定訪問療法士	4			4

生活期（訪問リハビリ）

自宅を訪問し、身の回りの動作練習や、自宅環境・介護力を考慮したアドバイスをしながら、趣味や家事などの生きがいや役割を見つけ、地域社会でより充実した生活が送れるようサポートを行います。

具体的には、

- ①歩行・トイレ・入浴・更衣・食事・家事などの動作練習と指導
- ②外出方法の提案や公共交通機関を利用した外出練習など外出に向けた支援
- ③寝たきりや閉じこもりを防ぐ支援や精神・心理面の支援
- ④家庭で取り組める自主トレーニングの指導、生活環境に関するアドバイス、ご家族への介助指導

など多種多様です。主治医や介護支援専門員のように地域社会で生活を支援している専門職と連携し、ニーズに合わせたリハビリテーション計画の立案と実施を、明るく元気なスタッフがお手伝いしています。



生活期（通所介護）

介護事業部の通所介護「デイサービスあらしき」では、利用者さまに朝から夕方までの時間に通っていただき、食事、入浴、機能訓練、余暇活動の提供を行います。機能訓練では集団で行う体操、個別に行う訓練があります。自宅での生活がより良いものになるように、今持っている能力を維持できるように、療法士はご利用中の利用者さまの活動の様子や、ご自宅の環境の確認を行いながら、支援していきます。

また、利用者さまが通っている間の時間は、介護を担っているご家族のレスパイト（休息）にもなります。



生活期（通所リハビリ）

集団でのレッドコードエクササイズ（ストレッチや筋トレ、バランス練習）や、動作練習を1回80分で実施しています。



機能訓練施設

広島ロボケアセンター

世界初の装着型サイボーグHAL®を用い、身体機能を改善・補助・拡張・再生できる最先端の自費機能訓練施設です。脳卒中や交通事故の後遺症、パーキンソン病、手術後の筋力低下などの疾患に、質の高いプログラムを提供しています。



地域リハビリテーション 広域支援センターとしての活動

当院では平成25年より広島県から地域リハビリテーション広域支援センターの指定を受け、地域の皆さまが生き生きと生活できるための支援をしています。

介護予防



「住民主体の通いの場」の支援、短期集中的に行う自宅訪問、介護予防ケアマネジメントへの支援、地域ケアマネジメント会議への参加等、地域の皆さまが生き生きと生活できるためのお手伝いをしています。

災害支援



避難所生活での生活不活発病の予防、体力の維持・回復、避難所や仮設住宅における環境整備に対して支援を行います。平成26年の広島土砂災害、平成28年の熊本地震、平成30年の西日本豪雨災害では、広島県公衆衛生チームとして支援活動を行いました。

専門職人材育成



地域リハビリテーションを理解し、介護予防・重症化予防等へ積極的に取り組む地域リハビリテーション専門職を育成するための研修を行います。



理学療法士長
(17年目)
木村隼人



当院では経験や能力に応じて配置換えがあり、さまざまな経験ができ、療法士としての幅を広げることができます。

入社してからの経験

- ◎1～3年目：急性期、回復期を担当
- ◎4～5年目：回復期リハビリテーション病棟の専従療法士
- ◎6～9年目：デイサービスを担当
- ◎10年目～：訪問リハビリと入院リハビリの兼務、介護予防事業への参加

さまざまな機器を用いたリハビリテーション

装着型サイボーグHAL®

脳からの「体を動かしたい」という信号を増幅し、円滑な運動を援助。その感覚を反復して経験し、脳は体の動かし方を再学習します。
当院には下肢タイプ・腰タイプ・単関節タイプを導入しています。



IVES (アイビス)

麻痺した筋肉の微弱な活動を電極で感知し、その活動に合わせて筋肉に電気刺激を与え、上肢機能や歩行能力の回復につなげます。



パスリーダー

磁気で末梢神経を刺激し、筋肉の収縮を促します。着衣のまま使用できるので、皮膚が弱い患者さまでも安心です。



パワープレート®

三次元の微細な振動によるトレーニングマシンを活用し、神経や感覚センサー、筋骨格、循環器系を刺激して機能回復を図ります。



ジェントルスティム

嚥下障害へのアプローチとして、喉に微弱な電流(干渉波)をあて、感覚神経に刺激を与えて嚥下反射を誘発します。



G-TES®

ベルト電極を巻き、下肢すべての筋肉を動かして運動を代用する電気刺激装置です。通常のリハビリテーションが難しい方に対しても効果的です。

